
2018年8月28日(火) マイカ 美浜釣舟センター 宝生丸 美浜町早瀬
大潮:旧7月18日 満潮 15:17(31cm) 干潮 22:14(5cm)
満潮 翌日04:32(24cm) 敦賀港
マイカ 自分 : 5 8 杯 ツレ : 4 4 杯

16時00分 現地着
17時00分 釣り座のくじ
18時30分 釣り開始 パラシュート釣り

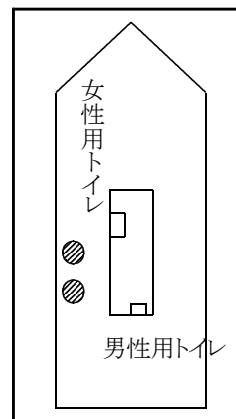
22時14分 干潮(5cm:敦賀港)
0時30分 納竿

【マイカ仕掛け】

基本

- 浮きスツテ2.5号 上から、赤緑、赤白、エギ、赤緑、赤白
- 一番下は、目立ちやすい色にした方が確認しやすいから、赤白とする。
幹糸4号枝間1.2m 上下も1.2m 全長7.2m 幹糸再利用
ハリス3号3cm 一部再利用
- 2018.7.15でメンテナンスしたものを利用した。
- ツレは上から、赤緑、赤白、エギ、赤緑、赤白
真史は上から、赤白、赤緑、エギ、赤白、赤緑
- おもり 60号(前回80号だった) 水中ライトなし
- 電動リール 真史:シーボーク300J ツレ:電動丸3000XH

- 乗船前に取材に来た釣り人がいて、釣り談義で盛り上がった。
- キーストーン製の「ケンサキSP」がよい。姿勢が水平になるからとのこと。
- マイカは待っているときに当たってくるから、誘いを入れてピタッと止めて待つとのこと。
- 自作仕掛けを見直してみると、赤白はすべてケンサキSPだった。心なしか、赤白によく掛かったような気がする。色が良かったのか、ケンサキSPが良かったのかは不明。ただし、赤緑にもエギにも掛かった。



【料金】

- 船代 ¥12,000 (氷付き)

【様子】

- 夏休みやっといか釣りに行くことができることになったので1週間前に予約した。
- 平日なのに満員。トップシーズンは早めの予約が必要。
- 天気予報を見たら雨。それでもいくことにした。
- 始め曇り、風弱し。やがて風が吹き出し、波もうねってきた。途中、雨が降り出した。納竿時には上がっていた。
- 雨が降る予報だったので、寒くならないか心配した。ランニング、Tシャツ、長袖を着た。下はジーパンのみ。雨が降り出して、カッパを着た。寒さは大丈夫だった。
- 「おもりは60号。」とアナウンスがあった。

- 日没前は、底だと考え、底まで落とした。70mくらいだったかな。すぐにヒット。途中でばれたかと思いきや1杯付いていた。引きが強かったから1杯はばれたのだろう。
- 隣の人とお祭りし、夕まずめの底タイムはなくなってしまった。
- 日が落ちて集魚灯がついている。「16m18m」とアナウンス。
- ツレが掛けた。棚を聞いたなら「17m」とのこと。
- 隣の人がよく釣っている。低速自動巻きではなく、止めて釣っている。時々竿を振っている。振り方は大きくあおるのではなく、おもりが動くくらいの振り幅だった。しばらくしてもあたりがなければ、1m巻き上げて繰り返している。
- これをまねした。17mで止めて探る。ここから釣れるようになった。22m～16mで釣っていた。
- やがて釣れなくなった。ツレが30mと教えてくれた。また釣れるようになった。32m～28mで釣った。
- 竿を振ってなんとなく釣っている。釣りのパターンを確認した。

- 棚で止める。おもりが動くくらいの振り幅で2回誘いを掛ける。カウント8(8まで数える)まで待つ。待っているときに当たってきた。当たらなければ、1m巻き上げる、またはリールを2回巻く。これの繰り返し。
- 棚付近にきたら、サミングしながらゆっくり落とす。1mを2～3回に分けてサミングしながらゆっくり落とす。1m落としては待つ。待つ時間はカウント3から5。
- 28mまで一気の落とす。28mから32mまで1m間隔でサミングしながらゆっくり落とす。当たらなければ、32mで誘いを掛ける。カウント8待つ。当たらなければ1m巻き上げ(リールを2回巻き)、誘いを掛けて待つ(カウント8)。28mまで繰り返す。
- この一連の動作の中で必ずあたりがあった。(イカの群れが大きく、活性が高い。)
- イカを締めていたら船頭さんが来て置き竿にしておいたものを低速自動巻きにした。シーボーグ300J スピード2 60号おもりが動く一番遅いスピードである。水深13mで掛かった。
- 再度、13mで止めて誘ってみたが掛からなかったので、32m～28mでの釣りにした。
- イカの回収スピードは15～17がよい。足切れを防ぐために12で巻いたが2回連続でばれていた。少し大きめのマイカやダブル・トリプルの時は引きが強く、足切れを心配した。置き竿以外は手持ちで釣った。
- 「もぞっ」するなど、イカがついていそうな気配がしたときには、スピード2からゆっくりスピードを上げていった。掛かっているなら、あたりがはっきり出ると考えた。これで何回か釣った。

- 鉛スツテの二刀流や、客が少ないようなら胴付きの二刀流も考えたが、やはり竿は1本の方が面白い。
- 真史は船中3番目の釣果だった。

ツレ

- 竿を大きく振り上げて戻す。竿が水平になったら、シャカシャカとシェイクする。シェイクしていると重たくなる。シェイクを止めると、当たっていることが確認できる。(終了前1時間くらい)